切り絵『辰』　比企善彦 作

うぶすな

茨木神社社報
発行所
茨木神社社務所
茨木市元町4−3
072(622)2346
https://www.ibarakijinja.or.jp/

茨木恵美須講　結成七十周年

茨木恵美須講が結成されて七十年の年を迎えます。それは即ち七十年前、今日の十日戎の賑わいが始まったことでもあります。言うまでもなく茨木の恵美須様は江戸時代の初めより篤く信仰され、毎年祭礼が斎行されてまいりました。

昭和に入り、当神社そして恵美須神社とご縁のある中の有志の方々により、吉兆や笹が授与されていましたが、まだまだ淋しいものでした。

戦後、荒廃した社会状況の中、昭和二十八年福徳を授けて下さる恵美須様への奉仕を通して住民の活力と地域の発展を願って「恵美須講」が結成され、十日戎が再出発したのでした。

それぞれの神社の歴史を振り返れば、それぞれの時代のそれぞれの人々の願いや努力によって今日のそれぞれの神社があります。恵美須神社におきましても、この七十年、歴代の講元様をはじめ多くの講員の方々のご努力・ご奉仕により十日戎の神賑行事が年々盛大に執り行われて、今日の賑わいとなっています。

七十年の憶いかさねて御社も
講も氏子も永久に栄えむ

十日戎と恵美須講

・由緒

当神社境内社である恵美須神社に「恵美須神縁起」巻物一巻が伝えられています。

その縁起によれば、「天正年間の頃より月毎に市日が定められ、遠近より人々が集まり商いが盛んに行われるようになった。元和三年の秋、米屋が仕入れた米俵の中から恵美須神の「御絵」が忽然と現れ給うたので、これこそ商売繁盛の瑞祥であると慶び祝い、以後毎月二十日に交替で私宅に御絵像を掛けて祀る習わしとなった」と伝えています。

商売が益々繁盛するにつれ、私宅で御絵像を持ち廻ることは恐れ多いと、宝永五年（一七〇八）十一月二十日より毎年神社内で祀ることとなり、さらに明治十二年（一八七九）神社境内の現在地に社殿を建設して祀ることになりました。

・御祭神（事代主神・大国主神）

古事記等の国譲り神話において、出雲国を受取に派遣されてきた建御雷神に対し、父神の大国主神から交渉を任されていた事代主神は、直ちに出雲国を天照大御神に譲られ、自らも身を隠されたという国譲りの大神様。

この時、事代主神は美保の崎で漁をされていたところから、漁業の神として信仰されていましたが、中世以降七福神の中に加えられ、農業神・商業神として崇敬されるようになりました。

当恵美須神社の本宮を事代主神を祀る「美保神社」とし、年一回茨木恵美須講役員が代参しています。

11月20日の恵美須神社例祭

就任報告

この度、新たに山中信之様、寺田慶次様に、令和五年十月より神社総代にご就任いただきました。

令和五年「大祓・輪くぐり神事」及び「夏祭」の様子

～四年ぶりに本来の形へ～

令和二年より三年間、新型コロナウイルス感染症防止のため、諸神事において参列者を制限するなどの対策をとってきました。今年五月八日に感染症法上の扱いが五類となり、諸神事を以下の通り四年ぶりに本来の形に戻して斎行いたしました。

●「大祓・輪くぐり神事」、コロナ禍の間は神社関係者のみの参列で斎行しておりましたが、今年は、例年通り午後二時より氏子崇敬者の皆様ご参列のもと神事を斎行いたしました。当日はＪＣＯＭによる生中継も行われるなど、コロナ禍以前に近い多くの参拝者で賑わいました。

大祓・輪くぐり神事の様子

●七月十三日・十四日斎行の当神社恒例の夏祭、コロナ禍の間は神事を神社関係者のみの参列で斎行した後、令和二年は居祭、三年は境内のみでの神輿の舁き出し、四年はトラックに神輿を載せて御旅所から御旅所への渡御という制限した形で斎行してきました。

しかし今年はコロナ禍前に戻し、各町会によって祭礼委員会が組織され、子供・大人奉仕者による大神輿・子供神輿・太鼓の渡御が斎行されました。祭を楽しみにしておられた氏子崇敬者の皆様の笑顔が印象的でした。

大神輿の宮出し

宮入りへ向かう太鼓

＊夏祭絵画御奉納

主原町に在住されておられた西田弘子様（平成二十三年逝去）が、長年ご覧になっていた夏祭の太鼓巡行の風景を、生前に油絵に描いておられました。その絵画を今回、娘の八木恵美子様より御奉納いただきました。心より感謝申し上げます。

黒井の清水大茶会

～野点が復活しました～

十月七日（土）、黒井の清水大茶会（主催：茨木市観光協会）が神社境内にて開催されました。午前九時から本殿にて奉茶式が斎行され、お抹茶とお菓子が御神前に供えられました。

今年は、新型コロナウイルス感染対策のために中止されていた野点が四年ぶりに復活しました。午前十時より、本殿前の境内を第一会場に、儀式殿一階和室を第二会場にして実施され、多くの方々が野点を楽しんでおられました。

野点（第一会場）

境内休憩所に設けられた舞台では、長谷川あつこ様による琴の演奏や、茨木神社雅楽会による雅楽の演奏が行われ、来場者の耳を楽ませました。

当社本殿裏にある黒井の清水は、豊臣秀吉が茨木城に入城した際に用いられたと伝えられ、摂津名所図会（寛政十年・一七九八刊）にも「名水にして寒暑増減なし。茨木郷中多くの用水とす。」と記されています。

また明治四十四年には、当時の皇太子殿下（後の大正天皇）が梅林寺で御仮泊の際に御用水とされました。また昭和初期までは竹管に通し、各家の井戸に水を送り続けて利用されていました。このように黒井の清水は、古くから名水として郷中の人々に愛されてきました。

黒井の清水

抜穂祭

毎年神社の境内では、伊勢の神宮でのみ栽培され、「イセヒカリ」と名付けられた稲を、少しですがお頒かちいただき苗から育てています。今年も夏の暑さと度重なる風雨にも耐え順調に生育して、実りの秋を迎えました。神様の御恵み・お蔭でできた米なので「御蔭米」と名付けて、恒例の抜穂祭を十月二十六日に斎行し、十一月二十三日の新嘗祭に御神前にお供えいたしました。

奉賛会バスツアーご報告

十一月二十一日、恒例の奉賛会バスツアーが四年ぶりに開催されました。これは毎年十一月、近畿近郊の神社を正式参拝すると共に、その近くの名所を観光するもので、毎回多くの奉賛会員様に参加していただいております。

今年は秋晴れの下、七十九名もの多くの参加者が三台のバスで淡路島へ向かいました。まず伊弉諾神宮にて正式参拝、そして本名孝至宮司様より講話をいただきました。

その後、休暇村南淡路にて昼食の後、淡路人形浄瑠璃資料館を見学、そして日本三大鳥居で有名な「おのころ島神社」を参拝しました。国生みのふるさとである淡路島を堪能した一日となりました。

伊弉諾神宮にて

御朱印について

●御本殿創建四百年記念事業「令和の大造営」が竣功して一年が経つにあたり、「一年参り」と称してご奉賛いただいた皆様や奉賛会会員を中心にご案内させていただきました。その際、一年参り特別御朱印を記念としてお渡しいたしました。（令和五年十二月末まで受付いたします。）

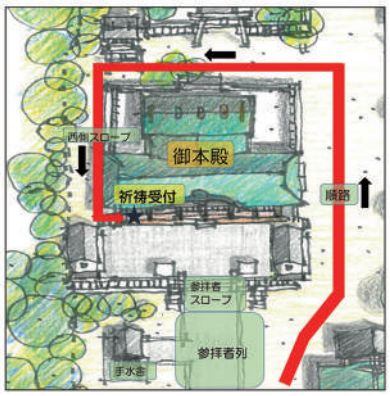
●令和六年新年御朱印を頒布いたします。雲に駈けのぼる龍をイメージして制作しました。初詣にご参拝の際にぜひお受け下さい。（初穂料は五百円です。数に限りがございますので、準備枚数が無くなり次第終了とさせていただきます。）

今後の神事について

◇初詣

例年、正月三ヶ日は多くの参拝の方々で賑わいます。そして皆様には何かとご不便をお掛けしますが、案内掲示や係員の指示にご協力いただきますようお願いします。

なお、厄除などの諸祈祷にお越しの方は、正面参道のご参拝列にお並びになることなく、左図の通り、直接本殿裏より西側スロープを上がり、本殿西側の祈祷受付にお越し下さい。



◇十日戎

今年も例年通り一月九日～十一日の三日間斎行されます。

この間、福笹・吉兆の授与、十日には宝恵籠巡行が行われます。

◇御火焚（とんど）

一月十五日の午前中に斎行いたします。正月飾りは当日正午までにお持ちいただきますようお願いいたします。

これからの行事予定

◆**越年祭**　十二月三十一日

◆**歳旦祭**　一月一日午前十時斎行

◆**十日戎祭**　一月九日～十一日

◆**御火焚（とんど）祈祷木奉焼祭**　一月十五日

◆**節分祭 鎮魂星祭**　二月三日

◆**紀元祭**　二月十一日

◆**初午祭**　二月十二日

◆**人形奉焼祭**　四月八日

◆**春祭（祈年祭）奉賛会厄除安全祈願祭**　四月十八日

◆**大祓・茅の輪くぐり神事**　六月三十日